

原水爆禁止 2019 年世界大会実行委員会ニュース

発行：原水爆禁止世界大会実行委員会 電話:03 - 5842 - 6035
FAX:03 - 5842 - 6033 E メール：antiatom55@hotmail.com

2019 年
7 月 29 日発行

オーストリア共和国大統領 からメッセージ！



オーストリア共和国のアレクサンダー・ファン・デア・ベレン大統領(右写真、ウィキペディアより)から、2019年世界大会へのメッセージが届きました。全文を紹介します。

今年は広島・長崎への原爆投下から 74 年となります。この機に私たちは、今もなお続く原爆被害者の苦しみに思いをはせ、その一方で、全人類に対して未だに核兵器がもたらしている明白で差し迫った脅威を思い起こすべきです。

今日世界中になお貯蔵されている 14,500 発の核兵器は、容認できないリスクであるという確信を再確認します。1945 年を生き延びた人々は、たとえ一発であれ核爆発が壊滅的な人道的結末をもたらすことを教えてくれました。この数十年間に起こった誤作動、誤認警報、情報の誤解など無数の事例は、核兵器は防護を提供するのではなく、それを保有する者たちを含め、私たちの生存そのものを脅かしているということを示してきたのです。

核抑止は安全を提供できないということは、極めて明白でありながら、核拡散に向けた動きが世界中にいまなお広がっています。この 50 年間、国際条約の後押しを受けながら多くの苦勞の末に勝ち取られてきた前進が、現在取り消されようとしており、軍縮・不拡散体制が脅かされています。

新型核兵器が開発中であり、より多くの運搬システムが配備されつつあります。3 兆ドルをかけた核兵器近代化計画は、核兵器を今後数十年も稼働させることを目指しています。同時に、安全保障状況は悪化する一方です。この状況のもと、私たちは不拡散のための法的取り決めを、完全に効果的に実施する共通の努力を新たに確認せねばなりません。来るべき核不拡散条約再検討会議で、私たちは条約の実施を評価しますが、核兵器のない世界に向けて、新しい具体的な進展も緊急にかちとらなければなりません。

この点で、国連が 2017 年に核兵器禁止条約(TPNW)を採択したことは歴史的な突破口となりました。122 カ国が、核兵器のない世界への熱望をはっきりと確認したのです。核兵器の明確な禁止を確立するために、同条約は、核兵器の保有、製造、配備、使用と威嚇に悪の烙印を押し、国際法上のギャップを埋め、NPT の履行に不可欠な貢献をなしています。今日までに 70 カ国が禁止条約に調印し、23 カ国が批准しました。私たちは全ての国々が、できるだけ早くこれら先駆者に続くよう呼びかけます。

今日の世界には多くの課題が山積しています。しかし、それにも関わらず、私たちは現代の抱える諸問題に、これまで被爆者が取り組んできたように、勇気と展望をもって立ち向かいます。被爆者の大変な努力と献身は、国際法にもとづいた世界の多国間秩序の確立に大きな貢献を行ってきました。そのおかげで私たちは核兵器の時代を終わらせる手段を手にしたのです。この秩序を維持し、強化するのは私たちの責任です。そして私たちの子どもや孫たち、そして被爆者に対する責務です。

以上をもって私は、原水爆禁止世界大会を組織される方々に、そして日本の人々に対し、この分野での継続した努力と活動に対し、感謝を捧げます。私は、みなさんの核兵器のない未来への希望を共有します。その未来においては、誰であれ、核戦争の恐怖のもとに生きることがあってはなりません。